日本人は どこからやってきたのか

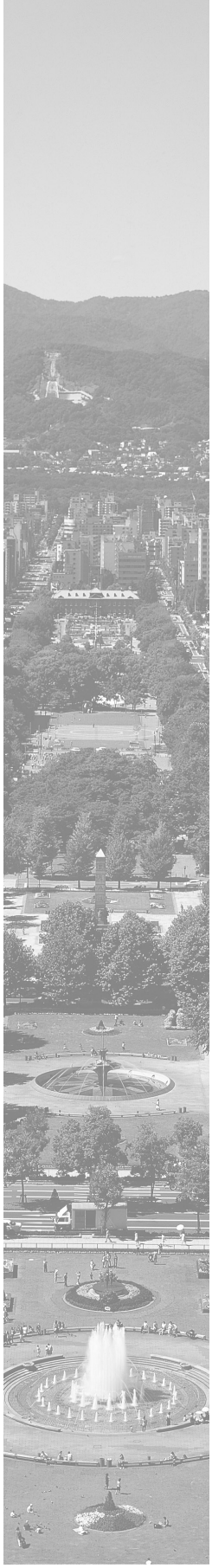
副会長　深澤　雅則

日本人はどこからやってきたのかということが、かなり前から気になっていた。顔だけ見ると日本人は欧米人や黒人とは全く似ていないがアジア系民族、特に朝鮮人、蒙古人、中国人などとはかなり似た顔をしている。現在DNAのゲノム解析で、人類祖先の誕生から日本人のルーツはかなり判っているが誰もなぜかはっきりと言わない。人間はチンパンジーとは共通の祖先から枝分かれして進化した種で、最初のヒトは2001年中央アフリカのチャド共和国で発掘されたサヘラントロプス・チャデンシスとされている。およそ700万年前である。

以下、起源については諸説あるが、1974年に発掘されたアウストラロピテクス・アファレンシスは世界で一番有名な人類化石で「ルーシー」と呼ばれており、390万年前の女性で身長105cmである。1856年ドイツのネアンデル渓谷から発見されたネアンデルタール人は30万年前から４万年前までヨーロッパや中東に住んでいた。以前人類発生の地はヨーロッパと考えられていたが、現在はアフリカが発生の地と考えられている。

現生人類、ホモ・サピエンスはアフリカで約20万年前に誕生し「出アフリカ」は６万年前とされている。現生人類のほとんどすべての人が20万年前にアフリカに住んでいたある１人の女性の子孫であるということがミトコンドリアDNAの研究で判ってきている（ミトコンドリア・イブ説）。

アフリカを出たホモサピエンスは４万年前に日本列島にたどり着いている。これは人骨の発掘より確実である。後期旧石器時代に当たる。その後東南アジアから東アジア、北東アジアへと広がった人々が渡来弥生人となり、ゲノム解析で中国北東部や朝鮮半島の人々と遺伝要素が共通である。現代日本人のミトコンドリアDNAを調べるとハプログループは20種以上あり、同一のルーツではない。縄文人と渡来弥生人の交雑で現代日本人ができているのであろう。



冬季オリンピック

理事　恩村　宏樹

2018年２月９日第23回冬季オリンピックが韓国北東部の平昌で開幕した。アジアでは1972年の札幌、1998年の長野に続く３回目の大会となった。過去最多となる92の国や地域、2,900人を超える選手が参加する一大イベントである。開会式では、韓国と北朝鮮が合同入場行進を行い、会場には朝鮮半島の民謡「アリラン」が流れた。同じ日に日韓首脳会談も行われ、国際政治情勢が強く反映された大会となった。

開会式で日本選手団の旗手を務めたのは、ご存知、葛西紀明選手である。スキージャンプ会のレジェンドと呼ばれ、冬季五輪史上最多８度目の出場を果たした日本が誇るアスリートである。屋外の厳しい寒さの中で行われる開会式とあって欠席した選手も多かったが、元気な日本選手団の行進は印象的であった。

今大会では、ドーピング問題でロシアが国として参加できなかったことも話題のひとつとなった。ロシアといえばいつの大会でも多くのメダルを獲得するスポーツ大国であり、そのロシアの不参加は多くの競技に大きな影響を与えたと思われる。個人としての参加は許されるということだが、選手のモチベーションはいかがなものだったかと考えざるを得ない。

さて、肝心の日本の成績だが、当初目標に掲げた９個以上のメダル獲得は大幅に上回り、金メダル４個、銀メダル５個、銅メダル４個、合計13個のメダル獲得となった。中でも圧巻だったのは、男子フィギュアスケートの羽生結弦選手。大怪我を乗り越えて２大会連続の金メダルを獲得し、大きな感動と勇気を与えてくれた。スピードスケート女子500mの小平奈緒選手、同じくパシュートの日本チーム、同じくマススタートの高木菜那選手の金メダルも立派だった。それ以外でも多くの喜びを得られた17日間だったと思う。

２年後の2020年には、東京オリンピックが開かれる。今から楽しみで仕方ない。